

NEWS RRM

[ニューズ] Regional Resource Management



4度目の春

研究科長 江崎 保男

地域資源マネジメント研究科が4度目の春を迎えるが、こまでは、ほぼ順調なスタートと言えよう。発足当時に抱えていた課題のいくつかは、クリアされたからである。たとえば入学定員は満たされており博士前期修了者の就職先は、市役所・環境コンサルタント・ジオパーク関係機関・鳥類保全法人、そして一般企業、と初期の狙い通り多様である。これらの現場でRRMの修士たちが十分活躍してくれると期待できる。博士後期が立ち上がったことは、本紙面でも以前にお伝えした通りである。また、待望していた「安価でリーズナブルな学生宿舎」が豊岡市の多大なる支援のもと、現実のものとなった。誠に有り難いことである。そして、院生たちの研究が「地域と歴史」を合言葉に、多岐にわたっているのはもちろんのことだが、理論を基盤にした実践的なものが出るようになってきた。なかでも農林業に代表される地域の生業に貢献できる研究が目を引く。

いっぽう、コウノトリの野生復帰に関する研究は院生たちの加入と共に、きわめて強力なものとなった。これまでブラックボックスであった部分に光が当てられ、餌とハビタット(生息場所)、そして社会構造を主とする新たな生態学的成果が表れつつある。これらは近い将来、New to Scienceの業績として、世に認められることになるだろう。さて、写真にある雪の世界は、このキャンパスを特徴づける風景のひとつである。むろん生活するものにとつて、雪は大変だが、これが降りやみ、陽ざしが顔をだすとき、この風景は神聖さを感じるほど美しい。また、日本の生物多様性に雪は欠かせない。山の頂に雪の形で蓄えられる水とともに、厳しい冬がもたらす生物たちの死が、豊かな栄養として、春の豊穡を約束しているからである。21世紀初頭にいる私たちは実に厳しい社会に生きているが、雪に埋もれた豊岡は、豊穡の海を約束してくれているように思えるのである。

博士前期課程C日程入試 博士後期課程第2回入試

Information 01

博士前期C日程入試(全日程を合わせて定員12名)および博士後期課程第2回入試(全日程を合わせて定員2名)を平成29年3月5日(日)に実施いたします。試験は専門試験(小論文)と口述試験、会場は豊岡ジオ・コウノトリキャンパス(豊岡会場)と、神戸商科キャンパス(神戸会場)から選べます。

サイエンスカフェ RRM (第5回)

Information 02

本研究科では、兵庫県北部但馬地域の「知の拠点」としての機能を発展させ、地域課題解決に関する論議を行うとともに、本研究科がめざす「地域資源マネジメント学」構築を推進するため、「サイエンスカフェRRM」を開催しています。これまで但馬地域において実施してきましたが、第5回となる今回は、会場を神戸に移し、研究科長みずからが、最新のコウノトリ事情を神戸で紹介し、参加者全員で議論しようというものです。飲み物片手に、自由闊達に議論してみませんか。

日時:2017年2月11日(土/祝日)14:00~16:30(開場13:30)

場所:兵庫県民会館902号室(神戸市中央区、県庁前)

内容:

- (1)話題提供(14:00-15:15)江崎保男教授(本研究科研究科長)「コウノトリ野生復帰がめざす生物多様性復元と人の暮らし」
- (2)ディスカッション(15:15-16:30)

参加対象:

地域課題や地域再生、自然環境の保全などに興味をお持ちの方。

※参加希望者多数の場合は、先着40名までとします。

参加費:無料(飲み物が必要な方は、各自ご持参ください)

申込締切日:2月8日(水)

※但し、定員に満たない場合は当日まで受け付けます。

主催:兵庫県立大学地域資源マネジメント研究科

共催:兵庫県立コウノトリの郷公園

[お問い合わせ] 各催しの詳細はウェブサイトをご覧ください。あるいはメール、電話にてお気軽にお問い合わせください。

Information

兵庫県立大学COC事業 兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科 大学院生による研究報告会 ~但馬の地域資源を考える~

Information 03

本研究科での研究成果を広く知っていただくために、博士前期課程2年生による修士研究発表会を実施します。興味のある方などなたでも参加いただけます。ぜひお越しください。

日時:2017年2月26日(日)13:00~17:00(開場12:30)

場所:豊岡市交流センター 豊岡稽古堂(豊岡市中央町2-4)

内容:分野別発表、トークセッションなど

参加対象:本研究科に興味をお持ちの方。

※参加希望者多数の場合は、先着100名までとします。

参加費:無料

申込締切日:2月23日(木)

※但し、定員に満たない場合は当日まで受け付けます。

平成29年度の主な行事予定

Information 04

●博士前期課程(A,B,C) 博士後期課程(第1回,第2回)入試日程

	A日程・第1回 (平成29年8月)	B日程 (平成29年12月)	C日程・第2回 (平成30年3月)
入試日	8月26日(土)	12月17日(日)	3月4日(日)
願書受付	8月2日(水)~ 8月15日(火)	11月21日(火)~ 12月5日(火)	2月7日(水)~ 2月20日(火)

●オープンキャンパス

春のオープン キャンパス	夏のオープン キャンパス	夏休みオープン キャンパス	冬のオープン キャンパス
5月7日(日)	7月2日(日)	8月6日(日)	12月24日(日)
個別面談 5/2(火)~ 5/7(日)	個別面談 6/27(火)~ 7/2(日)	個別面談 8/1(火)~ 8/6(日)	個別面談 12/19(火)~ 12/24(日)

オープンキャンパスを含む6日間、個別面談を毎日受け入れます。随時受付しておりますので、希望日時と話を聞きたい教員をお知らせください。



兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科 RRM

〒668-0814 豊岡市祥雲寺128(兵庫県立コウノトリの郷公園内)

兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス

Tel. 0796-34-6079 Fax. 0796-22-5200

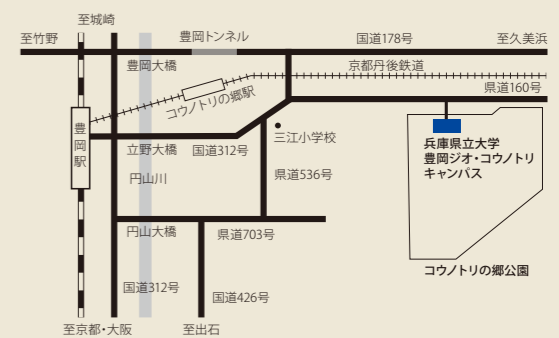
E-Mail: u_hyogo_toyooka@ofc.u-hyogo.ac.jp

<http://www.u-hyogo.ac.jp/rrm/>



UNIVERSITY OF HYOGO

発行:2017年2月



写真提供: 松原 典孝(表紙、杉林、博士後期課程記念式典)
家中 茂(森林での作業風景)



大学院のあらたな展開 — 博士後期課程の開設と地域資源マネジメント学の構築へ

教授 中井 淳史

平成28年度、大学院地域資源マネジメント研究科はひとつの節目を迎えました。春にははじめての修士課程修了生を送り出すとともに、4月には博士後期課程が開設され、大学院としての陣容が大いに整いました。

一方で、但馬地域に根ざし、いままではなかった「地域資源マネジメント」という看板を掲げる大学院として、教育の根幹である「地域資源マネジメント学」を、理論と実践を兼ね備えた学問体系としてつくりあげていく責務があることも忘れてはなりません。以上のような趣旨から、さる9月18・19日に、大学院主催の事業として「博士後期課程開設記念式典および博士後期課程開設記念フォーラム」人と自然の未来を創る「地域資源マネジメント学キックオフ」を開催いたしました。式典は大学院の開設以来、さまざまなかたちでご指導・ご支援をいただいている自治体や地元関係者の方々を来賓にお招きして、滞りなく挙行いたしました。

フォーラムは、豊岡市のご協力を得て、豊岡稽古堂に会場を移して開催しました。山極寿一氏(京都大学総長)をお招きしての特別講演「ゴリラに学んだ地域づくり」と、教員による「地域資源マネジメント学の理論」(江崎・井口・中井)、「地域資源マネジメント学の実践」(佐川・先山・山室)という3本の講演・報告を基軸とし、ゲストとして山岸哲氏(兵庫県立コウノトリの郷公園長)によるコメントリー、中貝宗治氏(豊岡市長)をまじえた講演・報告者によるパネルディスカッションという構成となりました。各教員がそれぞれの調査研究成果をふまえ、理論と実践の両方から「地域資源マネジメント学」の構想や射程について論じたうえで、ゲストの意見を交えてさまざまな角度や立場からそのあり方を考えるねらいです。特別講演をいただいた山極京都大学総長はゴリラ研究で著名な人類学・霊長類学者で、アフリカで長年すすめてきたご自身のフィールドワークをもとに、その成果を地域に活

かすという観点から興味深いお話をいただきました。あいにくの雨天にもかかわらず、地元を中心に幅広い世代から100名を超えるご参加をいただき、熱のこもった意見交換をすることができました。また、豊岡稽古堂ロビーには、大学院生の日頃の研究成果を紹介するパネル展示も併設し、こちらにも多くの方が大学院生の説明に耳を傾けておられました。大学院や地域資源マネジメントへの関心の高さを、主催者としてあらためて実感いたしました。

今回の成果は、「地域資源マネジメント学」の構築をめざす書籍として、あらためて公開の機会を得たいと考えています。



●パネルディスカッション(フォーラム)



●記念式典



RRM INTRODUCTION

林業を始める若者たち — 「生業・生活統合型多世代共創コミュニティモデル」

鳥取大学地域学部 教授 家中 茂

この日のサイエンスカフェでは、「林業を始める若者たち」というタイトルでお話させていただきました。私があるだけでも、最近日本の各地で林業に新たに取り組み若い人々が増えてきており、しかも、これまでの林業政策では想像もしていなかった層からの新規参入であることから、時代の精神の現れのように受けとめられるのではないかと思っています。

林業というと森林組合や素材生産業者へ委託することがほぼ常識となつていますが、各地でみられるのは、自分たちで自分たちの山林を管理しようという「自伐型林業」の取り組みです。それは「壊れない道づくり(大橋式作業道)」「身の丈にあった機械化」と「自営複業」を組み合わせた小規模林業であり、低コストで新規参入しやすいという特徴があることから、自分たちの暮らしのなかで森林とのかかわりをつくり直すための「ツール」として取り入れられているように思われます。おなじく近年、日本の各地でみられる中心市街地での「リノベーション」の取り組みと同時代性をもったものではないでしょうか。ひと言でいえば、これまでの生産力やエネルギー大量消費に依存したライフスタイルやワークスタイルの見直しが、若い人々のなかに起きているのでしょうか。

鳥取県智頭町でも、一昨年「智頭ノ森ノ学び舎」という若い世代の自伐型林業グループが立ち上がりました。その

設立の趣旨として「1年目は山への思い、2年目は技術、3年目は知識。まずは思いがなければ、全てが雑になってしまふ。50年かけて育ってきた木を次の50年に受け渡していく。山を大切に暮らしていくというマインドの部分をしつかり伝えたい」と述べられています。このような心性をもった若い人々がうまれてきていることが時代の精神の現れと受けとめられるのです。

現代社会のボトルネックとはいったい何でしょう。中山間地域における過疎化・高齢化の深刻化、その一方で、大都市への人口集中と心身の消耗ではないでしょうか。田園的生活に憧れる移住希望者は増加傾向にあるものの、中山間地域には仕事がなく、担い手喪失によるコミュニティ機能の衰退は著しく、その一方で、都会において個人化の進捗と生活の分断化が露わになっていることがあげられるのではないのでしょうか。このように「生業(経済)の問題」と「生活(福祉)の問題」が連なつて負のスパイラルを描いている現状に対して、政策(行政)も研究(大学)も縦割りのため、統合的にアプローチできず、そのためにかえつて分断化や断片化を再生産してしまふという問題を招いています。

このようなことから、縦割りになつていく政策や研究を乗り越え、暮らしや地域の全体性に対応する統合的アプローチを構築することが求められています。

私がいま取り組んでいる「生業・生活統合型多世代共創コミュニティモデルの開発」プロジェクト(注)では、①生業(経済)と弱体化した集落機能(福祉)を同時に回復する方法、②中山間地域最大の資源「森林を活かし地域特性を踏まえた地場産業の創出」、③中山間地域ならではの福祉のあり方、④地域の生活知(暗黙知)と大学の専門知(科学知)を統合した「ソーシャルな知」の創出という4つのリサーチクエストを設定しています。そのなかから「メゾ研究」と「サポートデザイン」というキーワードがうまれてきました。

「メゾ研究」とは、政策や制度を「マクロ」とし、個々の活動や技術を「ミクロ」とすると、マクロとミクロが実際に出会って機能する「場」の研究ということであり、地域マネジメントやコミュニティマネジメントがそれに該当するでしょう。つまり、政策や制度を「台本」に、個々の活動や技術を「役者」にたとえるなら、「メゾ研究」とは「舞台」の研究ということになります。政策や制度がほんらいの役割をはたし、個々の動きが活性化し技術が効果的にいかされるためには、どのような条件や環境を整え



●「智頭ノ森ノ学び舎」の若手自伐型林業グループ

ばよいのかを研究することになります。また「サポートデザイン」とは、これまでNPOの活動などでよくつかわれていた「中間支援」という言葉に近いでしょう。地域の人々の自発的な動きを引き出しバックアップしていくために、「支援」すなわち「サポート」を「デザイン」することです。それは、地域にかかわる異なるセクターや地域の人々の多様な経験や技術を組み合わせてサポートの仕組みをつくることといえます。ここでは、セクターを越えて、生活知と専門知を双方向にトランスレートする人材の育成が重要になってくるでしょう。

(注) JST・RISTEX「持続可能な多世代共創社会のデザイン」2016年度採択事業。鳥取大学、NPO法人トットファイブ・キョー・NPO法人自伐型林業推進協会による共同提案。